

飛鳥

古きもの
・
明日のもの

2020年
新しい
風
No.11



作者未詳（巻十九―四二六二）

天皇は神でいらつしやるから、水鳥が群がるような寂れてしまった沼地をも見事な都となさいました。なんと、すばらしい事でしょう。

大君は 神にしませば 水鳥の 集く水沼を 都となしつ



願いを込めて（稲淵）

写真／加藤秀行

明るい未来（稲淵）

※飛鳥浄御原宮を造営された天武天皇の偉大さを讀めた庶民の歌です。大化の改新によって、帝都は難波長柄豊崎宮に遷って10年。その後、宮殿は次々と災難に遭っていつこうに落ち着きません。しかし、壬申の乱の天武天皇の勝利により、27年ぶりに都が明日香の地に戻ってきました。飛鳥人は天皇を大絶賛。荒廃した田や沼地に都が帰ってきた喜びがこの歌に表れています。いよいよ、天皇中心の律令国家の始まりです。

※飛鳥浄御原宮・・・天武天皇の宮殿で、西に飛鳥川が流れ、神祀る雷丘や甘樫丘、北には香具山・耳成山が遠望できる小ぢんまりした田園地帯です。



入鹿の首塚

645年、乙巳の変により、蘇我入鹿は飛鳥板蓋宮で討たれます。その入鹿の首が空を飛び、落ちたところが飛鳥寺跡の西にある入鹿の首塚です。入鹿の首塚は花崗岩でできた五輪塔で、鎌倉時代末期から南北朝時代の様式を残しています。入鹿の首塚が文献記録に現れるのは江戸時代になってからです。有名なところでは、本居宣長による旅日記である『菅笠日記』にも入鹿の塚として登場します。一方、大正時代に記された『奈良縣高市郡志料』には、この五輪塔を飛鳥時代の僧である恵慈・恵聡の墓として二基存在していたと書かれています。さまざまな伝承がある入鹿の首塚ですが、蘇我入鹿にまつわる伝承は村内をはじめ隣の橿原市や三重県にも伝わっています。『日本書紀』に登場する蘇我入鹿は、悪者として非業の死を遂げた人物のように描かれますが、実は有能な政治家だったのではないかと見直されています。明日香村には蘇我氏を物語る資料がたくさん眠っています。

（明日香村文化財課 長谷川透）

とくを越えて
明日の明日香へ

蘇我入鹿と五輪塔



昭和46年（1971年）に設立された当財団は、先人のご尽力により長い歴史を乗り越え、来年（2021年）4月に設立50周年を迎えます。昭和40年代、開発の波に押される中、飛鳥の貴重な歴史的文化的遺産の数々を守るため、官民一体となった取組の中で財団は産声を上げ、飛鳥を後世に引き継ぐことを使命に歩んで参りました。今年には新型コロナウイルス禍で、施設の休館や事業の延期や中止を余儀なくされ、財団活動に大きな影響を受けました。今後は新しい生活様式に則った事業展開も必要と考えており、設立当初の理念を継承しつつ、飛鳥の未来のため、一歩一歩着実に歩んで参りたく、皆様のご理解・ご支援をお願い申し上げます。終わりに、飛鳥の玄関口である近鉄飛鳥駅前周辺（現在、道の駅飛鳥）において、地元住民・飛鳥駅前サポーター（ボランティアグループ）・地元高校生等と協働による景観向上活動（草刈りや植栽等）を行っています。ご興味ある方は、お気軽に当財団までお問い合わせ下さい。

（古都飛鳥保存財団 事務局 石田浩幸）

財団設立50周年



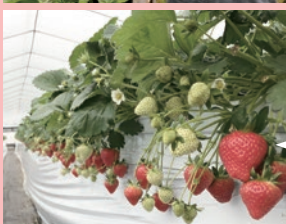
真つ赤ないちごが好きすぎて

明日香村の「いちご狩り」農園は現在16ヶ所。今季は1月に開園するも、コロナの影響で3月には休園を余儀なくされた。その中に、今年初オープンした農園がある。

「甘藷農園」の北村太亮さん 26才。小さい頃から米や野菜を作る専業農家の父の背中を見て育ち、中学生で「将来は農業をする」と心に決めた。大学を卒業後、父がまったく手掛けてなかったいちご栽培に魅せられることに。村内にある「いちご研究会」のメンバーの一員として50才〜70才が中心の大御所の中、最年少として奮闘すること4年間。一年目で苗作りに失敗するも、先輩達のアドバイスを受けて、解決してきた。

「農業がしんどいなんて僕にはない。アドレナリンが出る程農業が好きなんです」と彼は言う。

白い歯が印象的な若き就農者は今年も15,000株の苗を育て、2021年の開園に向け、出会うであろうお客様を心待ちにしている。



小さな子どもでも手の届く所にいちごが鈴なり。品種は高い糖度と酸味のバランスが抜群の「あすカルビー」

あすかいちご狩りパーク
2021年1月〜5月開園（予定）
問い合わせ先 ☎0744-54-1115(いちご)

「飛鳥・藤原」世界遺産登録を目指して

世界遺産登録を目指す「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」は、令和2年3月、文化庁へ推薦書素案を提出し、登録に向けて新たなステージを迎えました。

「飛鳥・藤原」は、6世紀末葉から8世紀初頭にかけて、律令国家が形成された過程を示す飛鳥宮跡、藤原宮跡を中心とした、仏教寺院、墳墓（古墳）など20の資産で構成されています。この時代、中国では隋・唐の統一国家が勢力を拡大し、東アジアの諸国は中国王朝の影響を受けて国家

形成が進みました。「飛鳥・藤原」では、中国王朝、朝鮮半島諸国との積極的な交流を通じ、律令制度（国家を統治する法システム）や仏教、天文・建築・土木技術などの最新文化を受け入れて国家を作り上げた様子が、地下に残された遺跡によって明らかにされています。遺跡の現地に立ち、明日香風に吹かれながら飛鳥時代の情景に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。

登録目標は令和6年。「飛鳥・藤原」の魅力の世界に発信し、未来へ伝える

するための取り組みを強化していきます。より一層の関心をお寄せください。

（明日香村文化財課 課長 小池香津江）

世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会ホームページ
<http://asuka-fujiwara.jp>



飛鳥宮跡

アグリステーション飛鳥



2020年4月 農林産物等交流促進施設「アグリステーション飛鳥」完成。近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください。
住所：明日香村真弓1042番地
連絡先：☎0744-54-9200

飛鳥ナンバー



2020年5月11日より「飛鳥ナンバー」交付開始。図柄は国宝キトラ古墳壁画・「朱雀」をもとにしています。



「青龍」「白虎」「朱雀」「玄武」四神のかかしに願いを込めて・・・「飛鳥駅前サポーター」の皆で作成しました。駅前でお待ちしています。（2020.8.24）



今も将来も明日香が好きでありますように
明日香小学校
（郷土学習）



「あすか科」

〈あすか科とは〉

幼稚園から中学校の12年間を通して、明日香村の歴史や伝統文化、「明日香法」で守られてきた自然や景観、村民の暮らしを学ぶことで郷土を愛し、誇りをもって明日香を語る子どもを育てる授業です。

この度は昨年度4年生を対象に古都飛鳥保存財団の杉平理事・事務局長が講師となった授業にスポットを当てました。

〈明日香法ができた経緯〉

昭和45年、漢方医・御井敬三氏が「村の風景を後世にこのまま残してほしい」という思いを患者である松下幸之助氏を通して佐藤首相にカセットテープで声のメッセージを送りました。それがきっかけとなり首相が来村。飛鳥保存を閣議決定。明日香村を愛する他県の人達の声にも支えられ、マスコミが一斉に飛鳥保存のキャンペーンを繰り広げました。そして、昭和55年明日香の歴史的風土の維持・保存を目的とした「明日香法」が施行されました。

〈児童子どもたちの感想文（令和元年度）〉
一番心に残ったのは、この法りつがあるのは日本中で明日香だけだとい

うことです。

・御井さんは目が不自由なので、声のテープで強い思いを伝えた事にびっくりしました。それなのに御井さんは「明日香法」を知らずに亡くなって残念です。私が悲しかったことは、国に保管されていた御井さんのテープが無くなっていたことです。
・「明日香法は国の法律」と杉平さんが言っていたところがカッコ良かった。杉平さんが松下さんに会ったと聞いてうらやましかったです。
・ぼくは話を聞いて、もっと古都飛鳥保存財団の人に協力して明日香を守りたいです。

〈昨年度4年生担当の先生の声〉

この授業を通して、今の明日香は先人の努力によって守られてきたのだということを学び、よりいっそう明日香を愛し、明日香を誇れるようになってほしいと願っています。

「飛鳥ブランド」の取り組み



飛鳥ブランドは、明日香村商工会にて平成22年から取り組んでいる、地域の特産加工品の開発及び販売促進のブランディング事業です。主に新商品の開発、もしくは既存商品のブラッシュアップにより、明日香らしい特産加工品を50品目以上開発しました。村内の土産物開発事業者、飲食店、小売店、製造事業者らが定期的に勉強会を開催して「飛鳥ブランド」に認定される為の要件、認定方法等、事業者自らがその内容を決めて運用している点に特徴があります。明日香産の古代米による「古代米ごはん」、特産いちごのあすカルビーを使った「明日香の素材まるごとジャム」など、明日香村の素材を使って明日香らしさを求めています。

今後は宿泊や飲食などの観光サービスや観光スポットなど、明日香村全体のブランディングを視野に入れた取り組みが求められているところ。（明日香村商工会 下田正寿）



古代米ごはん



明日香の素材まるごとジャム（あすカルビー）

お問合せ先 明日香村商工会 ☎0744-54-2068

編集後記

皆さま、お変わりございませんか。長かった梅雨が明けた途端に猛烈な暑さとなり、コロナ禍と重なって、今年の夏は例年以上に暑さとやるせなさ身に沁みます。

今回の号は「新しい風」というテーマで希望に満ちた村内の方々からの思いを掲載させていただきました。

今はコロナのトンネルの中ですが、季節はゆっくりと進んでいます。このトンネルを抜けると、きっといいことがこころはず。

「コロナには負けてはならんで、この先きつと笑いが咲く」



駅前に咲くコキアは「トトロみたい」と写真スポットになっています



新子 信子

Panasonic



私たちは
古都飛鳥保存財団の活動を
応援しています

